

第6回三原ふるさと子ども博士講座

ようこそ先輩！絵本作家永井郁子さん



平成28年10月10日（月／祝）に中央公民館で行われた「第6回三原ふるさと子ども博士講座」今年も講師として、絵本作家の **永井郁子** 先生にお越しいただきました。

永井先生の指導のもと、グリム童話『眠れる森の美女』を14の場面に分け、それぞれのシーンにあった絵を考えて実際に絵を描くという本格的な絵本作りを体験しました。

永井 郁子 ながい いくこ

本郷町出身。

「わかったさんのおかしシリーズ」「かいぞくポケット」など、多くの絵本イラストを手がける。

2009年には三原市ふるさと大使に任命され、三原の子どもたちのために精力的に公演を行っている。



永井先生のイラスト

『眠れる森の美女』

むかしむかし、ある国に、お姫さまが産まれました。お祝いのパーティが開かれましたが、招待されなかった悪の妖精が、姫が16歳の誕生日に、いとつむぎの針で指を刺して死ぬ呪いをかけました。そこでリラの精は、姫は死なず、100年の間眠ってしまうよう魔法をかけました。

姫が16歳の誕生日に、いとつむぎの針が入った花束で指を刺してしまいます。姫も、王様も、家来たちも深い眠りにつき、お城はいばらでおおわれて、誰も入れなくなってしまいました。

100年の時が流れました。ある国のゆうかんな王子は、リラの精にみちびかれ、いばらをかきわけ、眠れる姫の城にたどり着きました。悪の妖精がかけた呪いがとける時がきていたのです。

王子が姫にキスをすると、姫や城の人は目覚め、いばらは消えていきました。それから王子と姫は結婚式をあげ、いつまでもしあわせにくらしました。

講座のようす



永井先生のごあいさつ。
永井先生の絵本を知っている人いるかな！？



映像とともに、「眠れる森の美女」の
よみかたいをしてくれました。



2班にわかれて、絵本づくりの開始です。
参考イラストをもとに、それぞれの場面を想像して、描いていきます。



一人一人に声をかけて、ていねいに書き方を教えてくれる
永井先生。





約2時間かけて絵を完成させました。はじめはみんなとまどっていましたが、描いているうちに楽しくなっていた様子でした。



出来た絵の14場面をひとりで朗読して、ひとつの絵本が完成です！みんな上手く発表できていました。



最後はみんなで記念撮影。
永井先生、本当にありがとうございました！